

先進技術を活用した石油コンビナート災害対応に関する検討会（第４回）
【議事要旨】

１ 開催日時

令和２年２月２０日（木） １４：００～１６：００

２ 開催場所

東京都千代田区九段南２－１－５
三番町共用会議所

３ 配布資料

- 資料１ 先進技術を活用した石油コンビナート災害対応イメージ
- 資料２ 先進技術を導入する上での課題・留意点
- 資料３ 検討会報告書（案）
- 資料４ 第３回検討会議事要旨

４ 議事内容

（１）先進技術を活用した石油コンビナート災害対応イメージ及び課題・留意点について

【事務局】	資料１及び資料２により説明。
【川越委員】	技術に対する人材の育成について、企業だけでなく全体で進めるべきというコメントの追加を検討していただきたいと思う。
【三浦委員】	共有の範囲とそれに応じたセキュリティに課題が生じると思われる。また、ＡＩの活用については、人とＡＩの判断が異なる時の対応や、ＡＩ自体の判断力の向上方法が今後の課題と思われる。
【今尾委員】	セキュリティーの観点からも、災害対応時の事業所の情報がどこまで共有できるのかという点について疑問が残る。
【小出委員】	災害発生時は、発災タンクの内容物をシフトすることも考えなくてはならないので、シフト先のタンクを提案してくれるような技術についても効果的であると考ええる。
【小川委員】	普及としては、現在、設備のメンテナンスに活用しているものから広げていくのが良いと考える。
【小島委員】	行政機関としては、住民避難等を考慮したとき、最悪の事態を想定したときに、どこまで影響を及ぼす可能性があるかを把握することが重要である。早い段階で被害の拡大予測を提示できれば良いと感じる。

【村上委員】	A I 技術は、過去のデータの内容又は学習の成果により、その判断結果が変わるものであるので、責任の所在も含め、最終的に判断する者を明確にする必要があると思われる。
【小林座長】	最終的な判断は人間が行い、A I は判断をアシストする位置づけにならざるを得ないと思う。
【事務局】	被害の予測については、最初は幅のある提示があり、状況が把握できると狭まり、A I の支援情報を得ながら、消防活動により終息させていく状況を考えている。また、A I の判断力の向上については、プラントを運転している事業所にしかできないと考える。しかし、大規模事象については、頻度が少ないので、行政や業界団体での情報共有による必要があると思われる。
【杉山委員】	人間も技術の一つとして組み込まれると思われるので、先進的な技術を使った教育訓練を入れていただければと思う。
【細川座長代理】	訓練システムとA I を組み合わせて、ベテランの方の知識を包含するような訓練を行いつつ、A I がセンサー情報から今後のリスクの提示ができると良いと思う。
【國方委員】	ドローン等の無人機については、通信の電波が遮断され、コントロールができなくなる可能性があるので、施設の中に通信を中継するような設備があると良いのではないか。
【古賀委員】	ドローンは気象条件等により使用できないことがあることから、そのような状況下でも使用できる衛星画像等の有効活用についての記載も検討していただければと思う。

(2) 検討会報告書について

【事務局】	資料3により説明。
【小島委員】	検討会設置の背景・目的には、もう一步踏み込んでいただいて、消防庁として未来像と課題についても記載された方が良いと思う。また、未来像が何年後のものであるのかを示す方が良いと考える。
【事務局】	未来像は、今即座にできないものも含めての二、三步先のイメージであることがわかる文章にしたいと考える。
【小林座長】	この検討会の今後の方向性はどのように考えているか。
【事務局】	来年度以降は、二、三步先に向かっての一步を進めるために国としてできる支援を検討したいと考える。
【小林座長】	構成が現在の先進技術の状況と、二、三步先の未来像になっていることから、報告書については、現状と未来像を繋ぐような記載があると良いのではないか。

【小川委員】	課題の中に、規制上のインセンティブを与えることも有効と記載がありますが、事業所側から、今ある技術を活用することで規制緩和を促すような提案が、現時点では無いように思うが、いかがか。
【三浦委員】	技術導入については、負担軽減を実現することが目的であり、それにより規制緩和を要望していくことは、我々も課題であると認識しているが、規制緩和を要望するためには裏付けも必要で、現時点では、そこまでには至っていないと考える。
【小林座長】	現在の企業が取り組んでいることのもう一歩先に、事故対応はあると考えられる。その一歩先まで考え始めていただけるように、来年度以降に向けて最後の方に何か書けると、収まりが良いと思う。
【村上委員】	消防庁の考えや今ある課題を提示し、スタートアップやベンチャーが入る余地を開放していただければ、ここで議論されているのとは全く違うアイデアや新しい考えが出てくると思われるので、スタートアップやベンチャーを呼び込むような報告書にしていきたいと思う。
【細川座長代理】	新しい技術を取り入れるときの課題や改善点など、次のステップの取り組み方を最後に入れていただくと、来年度につながると思う。
【森口委員】	先進技術の導入後、持続的に安定して活用できる仕組みができあがると考えられるが、その際には、何かしらのガイドラインを明確にいただけると、一つの事業として様々な共通項をそろえて連携していくことが可能になると考える。
【小林委員】 (代) 藤井氏	新技術を保安に利用しようとしており、日常的に使用している先進技術を、災害時にはこういう使い方をするという提案ができれば良いと考える。

(3) その他

【事務局】	今後の事務手続きについて説明
-------	----------------